

徳島市自転車活用推進計画（案）概要版 1/2

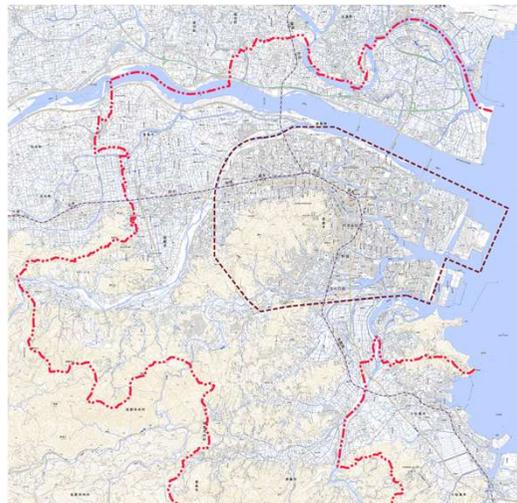
1. 計画策定の趣旨

■ 計画目的

本計画は、「徳島市総合計画2021」及び国や県の自転車活用推進計画などを踏まえた上で、本市の実情に応じた自転車活用推進計画を策定したものである。今回、評価指標の状況を把握するとともに計画達成度の検証を行い、取組内容の見直しなど、後期の取組方針を再検討したものである。

■ 計画区域

本計画の対象範囲は本市全域とするが、「走る：自転車通行空間の確保（自転車ネットワークの形成）」については、速やかに自転車ネットワークを形成し、安全を確保するために、自転車利用需要と自転車関連事故件数の多いエリアである市内中心部を「優先的計画策定エリア」とする。



凡例
 - - - 計画対象範囲
 - - - 優先的計画策定エリア

■ 計画期間

（令和元年度から令和10年度までの10年間）



評価指標の状況の把握、計画達成度の検証
 取組内容見直し、後期取組方針を再検討

2. 計画の目標

■ 基本理念と本市が目指す将来像

「走る」「守る」「停める」「活かす」をキーワードに、「様々な交通手段が共存しながら道路空間を利用し、誰もが安全で快適に自転車を利用できるまち」を目標とする。

「走る」：自転車通行空間の確保

【将来像】自転車通行空間が面的に整備され、全ての人にとって安全で快適な「自転車ネットワーク」が構築されたまち



「守る」：交通ルールの周知・啓発

【将来像】交通ルールやマナーの啓発活動が行われ、歩行者や自転車、自動車などが互いの特性や交通ルールを理解・尊重しあう、安全で安心な交通環境が創出されたまち



「停める」：駐輪環境の確保

【将来像】地域の需要に応じた利便性の高い駐輪施設の整備や駐輪に関する啓発活動などが行われ、鉄道駅やバス停、商業施設の周辺では整然と駐輪され、放置自転車のないまち



「活かす」：自転車を活用したまちづくり

【将来像】通勤・通学や買物といった日常だけでなく、観光やレジャー、健康増進、渋滞緩和、環境保全、災害対策などにも自転車を活用され、多様な自転車利用による活力と魅力あふれるまち



3. 現状と取組状況

	現状	取組状況
自転車交通関連	自転車通行空間の整備は進んでいるものの、安全で快適な自転車通行空間が整備された路線は、まだ少ない。 駐輪場が未整備の鉄道駅やバス停がある。 自転車分担率は全国第8位であり、全国有数の自転車分担率の高い都市となっている。 徳島駅前地下駐輪場の年間駐車台数は、コロナ禍前まで回復している。 自転車放置禁止区域内をはじめ、商業施設付近などで多くの放置自転車が撤去されている。	安全で快適な自転車通行空間が面的に整備された「自転車ネットワーク」を整備中である。 ● 鉄道駅やバス停の周辺における駐輪場の整備 ● 既存駐輪場を活かしつつ、新たな駐輪需要を満たす短時間駐輪の整備 ● 放置自転車の抑制 などを推進中である。
交通安全	交通事故全体の件数は減少しているにも関わらず、自転車関連の交通事故件数、重傷事故件数は横ばいである。 自転車に関する交通ルールの認知度が低い。 交通安全教室全体のうち、自転車に関する教育が少ない。	自転車に関する交通ルールを全ての自転車利用者に周知し、正しい交通ルールやマナーの啓発活動などを実施中である。
観光	徳島駅前地下レンタサイクルの利用者はコロナ禍前を上回るなど増加傾向にあるものの、広報活動や利便性の更なる向上など、改善点がある。	観光客などの交通手段となるレンタサイクルやシェアサイクルの更なる普及、サイクルステーションやコース案内表示整備などのサイクルツーリストの環境支援を推進・検討している。
スポーツ振興	サイクルイベントが少なく、市民がサイクルスポーツに触れる機会を十分に創出できていない。	多様なサイクリストの需要に応じられるサイクルイベント開催・検討している。
健康増進	「1回30分程度の運動を週2回以上実施している」と回答した人の割合は増加傾向にあるものの60歳代以下で4割以下、特に30歳代で低い状況にあり、日常的な運動習慣への取組が不足している。	サイクリングなどのレジャー利用や日常的な移動手段として自転車を利用することで、日常的な運動習慣への取組を促している。
交通渋滞緩和	徳島県内における主要渋滞箇所72箇所のうち、50箇所（約70%）が本市に位置している。	移動手段を自動車から自転車に転換することを促している。
環境保全	本市の温室効果ガス排出量のうち、運輸部門については約90%が自動車からとなっている。	
災害対策	国の「国土強靱化基本計画」では、「徒歩や自転車で避難することを前提とした避難経路・方法の検討」や「想定を超える大量の帰宅困難者の安全円滑な帰宅経路の確保」、「自転車の活用による被災後の迅速な状況把握などが示されている。	徳島市の公用自転車にバンクしにくいタイヤを採用するなど、自転車を活用した災害活動に関する取組を実施中である。

4. 計画目標値の見直し

指標名	計画策定時 (R2)		見直し時 (R5)	
	現状値	目標値 (R10)	現状値	目標値 (R10)
自転車通行空間の整備延長 (徳島市総合計画2021)	1.1 km (H30)	46.4km (市道22.4km)	4.7 km (R5)	46.4km (市道22.4km)
自転車関連事故件数	261 件 (H30)	100 件以下	264 件 (R5)	180 件以下
自転車交通ルールの認知度	75.2 % (H30)	100.0 %	75.2 % (H30)	100.0 %
放置自転車撤去台数	1,556 台 (H30)	800 台	733 台 (R4)	650 台
シェアサイクル利用者数 ※1	事業実施後に調査	現状値を受けて設定	(203 人) (R5.3.15~R5.12.4)	(1,000 人)
サイクルイベント数	1 件 (H30)	3 件	1件 (R5)	3 件
特定健康診査の問診で「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施」と答えた人の割合 ※2	43.5 % (H30)	第3次徳島市健康づくり計画を受けて設定	31.9 % (R5)	46.0% (R11予定)
自転車分担率 (平日・全目的)	20.2% (H27)	25.0 %	15.3 % (R3)	25.0 %
安全で安心して道路や橋が利用できていると感じる市民の割合 ※3	45.4 % (H30)	80.0 %	61.4 % (R5)	64.0 %
自転車利用環境への満足度 ※4	アンケート調査結果 (R2実施予定)	現状値を受けて設定	22.0 % (R5)	29.0 %

※1 シェアサイクルは、民間事業者によるものであるため、現状値及び目標値は参考として示す
 ※2 徳島市健康づくり計画（第3次）・徳島市自殺対策計画（第2次）より
 ※3 自転車利用者だけでなく、歩行者も安全で安心して道路を利用できると感じる市民の割合、徳島市総合計画2021より
 ※4 自転車の通行や駐輪といったハード面だけでなく、ソフト面も含めた満足度、徳島市総合計画2021より

5. 実現に向けて取組む施策

評価指標の状況を把握するとともに計画達成度の検証を行い、施策毎の取組方針を「強化」「継続」「推進」に分類した。
 また、各施策は、SDGsの各ゴール目標に貢献できると考えられる。



走る

方針1
安全で快適な自転車ネットワークの構築

強化
継続

施策① 自転車通行空間の整備
施策② 自転車通行空間が整備された路線の広報活動

止める

方針1
交通ルール・マナーの周知・徹底

強化
継続

施策① 段階的かつ体系的な交通安全教育の推進
施策② 自転車交通安全啓発教材の作成・活用
施策③ 自転車交通ルールの啓発活動

RULE BOOK

方針2
自転車の安心・安全利用に備える

継続
継続
継続

施策④ 自転車損害賠償責任保険等の加入促進に向けた啓発活動
施策⑤ 定期的な自転車点検の促進に向けた啓発活動
施策⑥ 安全性の高い自転車の普及に向けた啓発活動

止める

方針1
各種駐輪需要に応じた駐輪施設の整備

強化
推進

施策① 鉄道駅やバス停の周辺における駐輪場の整備
施策② 短時間駐輪需要を満たす駐輪場の整備

止める

方針2
放置自転車の抑制

継続
継続

施策③ 放置自転車撤去活動
施策④ 放置自転車の抑制に向けた啓発活動

活かす

方針1
自転車による周遊性の向上

強化

施策① シェアサイクルの導入

方針2
サイクリングの推進

強化
推進
推進
強化

施策② サイクリスト向けの広報活動
施策③ サイクルツーリスト受入環境の整備
施策④ サイクリスト向け案内表示の整備
施策⑤ サイクルイベントの開催・支援

方針3
日常的な自転車利用の促進

強化
継続
継続

施策⑥ 自転車を活用した健康づくりの啓発活動
施策⑦ 自転車を活用した交通渋滞対策の啓発活動
施策⑧ 自転車を活用した環境保全の啓発活動

方針4
自転車の活用による災害対策

強化

施策⑨ 自転車を活用した災害時の避難・復旧活動